

2006年度防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 平成19年1月25日

I 概要

実践団体・担当者名	三浦市教育委員会 (担当者：学校教育課 益田 孝彦)	
連絡先	学校教育課 指導室 046-882-1111 内線429	
プランタイトル	避難所学習から育む、地震に強い街づくり	
目的	①地震自体及び被災後の行動への正しい認識を持った生徒の育成 ②優れた行動力を身につける世代の育成 ③避難所の実質的機能の強化 ④地域を巻き込んだ防災教育の創生	
プランの概略	<p><主として初声中学校での実践></p> <p>①初声中学校における「避難所学習カリキュラム」(参考資料添付)</p> <p>ア、避難所に関する各グループによる調べ学習</p> <p>イ、災害電話171体験実習</p> <p>ウ、成果発表会(モデルプランの選定)</p> <p>エ、外部講師による効果的な講演会の実施</p> <p><市教委が取り組む全市的な実践></p> <p>②成果物の印刷物としての還元</p> <p>③学校防災プラン検討会による、学校防災計画の学校現場との綿密なすり合わせ</p> <p>④各校担当者への防災計画の浸透、応急避難所運営委員会の実働化</p>	
プランの対象と参加人数	<p><初中>・三浦市立初声中学校1学年 104人</p> <p><市教委>・学校防災プラン検討会委員 及び 市立学校防災担当者</p>	
実施日時	初声中学校での取り組み→通年 35時間位(主たる実施時期 11月以降) 市教育委員会での取り組み→平成18年度(通年)	
主な実施場所	三浦市立初声中学校 及び 三浦市教育委員会	
連携した団体名、連携の方法	連携した団体名 (注；以下、同じ番号なら同一の団体の項目である。)	<p><市教委>①学校防災プラン検討会</p> <p><初中> ②災害救援ボランティア推進委員会</p> <p><初中> ③湘南鷹取町災害防災ボランティア実行委員会</p> <p><初中> ④NTTドコモ神奈川支店</p> <p><初中> ⑤陸上自衛隊第31普通科連隊</p>
	連携したきっかけ・理由	<p>①市教委としてのニーズ及び校長会の支援</p> <p>②防災教育チャレンジプラン実行委員会からの紹介</p> <p>③担当が同委員会に所属</p> <p>④企業への支援要請を試みたところ同社が許諾</p> <p>⑤生徒の学びを深め、実感を育てる</p>
	連携団体へのアプローチ方法	<p>①校長会議での支援要請</p> <p>②派遣講師との間でメールを介した連絡</p> <p>③メール及び町内避難訓練等で直接お会いして連絡</p> <p>④メール・電話(学校教育課長からの依頼 計画書送付)</p> <p>⑤初声中学校長が直接訪問し、連隊長に協力要請をした。</p>
	連携団体との打合せ回数	<p>①②③④必要回数の開催。メール・電話を中心のやりとり。</p> <p>⑤回数は必要十分な回数(不特定)</p>
連携団体との役割分担	<p>①市教委の原案を詳細に検討、修正案を提示し調整を図る</p> <p>②③には生徒への講演の講師を依頼</p> <p>④NTTドコモには、携帯電話18台の貸与、通話料等料金の免除、当日の各教室での指導・助言を依頼</p> <p>⑤発表会当日、自衛隊に天幕・炊事車・人救セット等を設置して頂き、生徒が巡回しながら各ブースの説明を聞く。</p>	

Ⅱ プラン立案過程

＜主として三浦市教育委員会がプランを構築していったことについて＞

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	6 名
	外部スタッフの総人数	9 名
	主なメンバーの 役職・役割	学校教育課指導主事3名・立案（内担当主任1名 起案） 学校教育課長・決裁、教育部長、教育長・決裁 みうら学研究会教員6名 みうら学研究会外部講師2名（国立教育政策研究所総括官・市内教育実践家） みうら学研究会は計画の検証・協議 初声中学校校長1名・計画の検証、実現性の判断
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	平成17年7月1日 ～平成17年12月28日
	立案時間	約 50 時間
	上記のうち打合せ回数	3 回
プラン立案で注意を払った点 工夫した点	<p>＜三浦市の学校防災計画を整備する視点で＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックボーンとなる学校防災計画を、市の地域防災計画見直しにあわせ、県の資料等を活用しつつ策定した点。 <p>＜三浦市教育委員会の他の取り組みとのリンクに関する視点で＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みうらを題材に教材やカリキュラムの開発を目指す「みうら学研究会」の活動とリンクして、カリキュラムを作成したこと <p>＜初声中学校が総合的な学習の時間で「避難所学習」に取り組んだことについての視点で＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習として、地域学習ができる視点を失わず、全国どこでも実施できるカリキュラムとなるよう配慮した点。 ・学習としての興味が持てるように、実証的な実物実体験を重視したカリキュラムにした点。 ・カリキュラムの検証校である初声中学校の実施学年会との連絡を充分にとっていく点。 	
プラン立案で苦労した点	<p>＜三浦市の学校防災計画を整備する視点で＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックボーンとしての学校防災計画を各学校に周知していくため、学校防災プラン検討会を設置して、円滑な周知を図る手だてがとても大切だった点。 <p>＜初声中学校が総合的な学習の時間で「避難所学習」に取り組んだことについての視点で＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に活動をするのは検証校である初声中学校の第1学年の教員なので、その不安を払拭するのに腐心した点。実際には、チャレンジプランに応募する前に、指導主事による同授業の具体的展開を前年度に実際に見せ、それをふまえて実際の授業実践に入る形をとった点。 ・学年職員の入替わりで、実質的には昨年度の実践を知っている教職員が2名しかいない点で、先生方の実践への不安を払拭しきれなかった点。 ・検証校の職員ではないので、実際の日程を計画上で押さえていくことは簡単ではなかった点。 ・昨年度の実践をもとに本年度のモデル指定を受けたのだが、本プロジェクトにあわせ、初声中学校も学校として神奈川県の教育課題研究の指定を受けていて、その棲み分けが明確でなかった点。 ・実際の主展開が10月末からの授業なので、それまでの授業作りに工夫が必要だった点。 	

Ⅲ実践にあたっての準備 <主として初声中学校の避難所学習での取り組みについて>

備に関わった方と 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4 名
	外部スタッフの総人数	8 名
	主なメンバーの 役職・役割	学校教育課指導主事3名・内1名が主任（準備全般にあたる） 学校教育課長・決裁 初声中学校長・中学校側の決裁、神奈川県教育課題研究責任者 初声中学校教頭・校長の補佐 初声中学校第1学年会6名・内1名は総合的な学習担当者
準備に要した日 数・時間	準備期間	平成18年2月 日～平成18年8月 日
	準備総時間	約 30 時間
	上記の内打合せ回数	3 回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	神奈川県教育委員会
	どのように働きかけたか	三浦市立初声中学校の防災教育への取り組みを県の教育課題 研究委託校として推薦
	結果	平成18年度神奈川県教育課題研究委託校として指定を受け る
地域への 働きかけ (☆この項目にか がり、初声中では なく、市教委の活 動である。)	働きかけた地域の人	各学校避難所運営委員会（学区の地区住民の代表の方々）
	どのように働きかけたか	危機管理課と共同して、従来設置されていなかった、学校毎の 避難所運営委員会設置へ向けて、防災プラン検討会等で検討を 進め、その第1回開催を目指した。
	結果	現在進行中の計画。3月から次年度1学期にかけて、各学校で 開催する予定。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	初声中学校 PTA
	どのように働きかけたか	・災害電話171体験実習への家庭での同時体験をお知らせで 通知し、参加協力を要請した。 ・成果発表会（モデルプランの選定）への参加呼びかけを研究 発表会のチラシを作成して行った。
	結果	・どちらの行事にも、昨年度以上の保護者の参加・見学が見込 まれる。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	①災害用伝言ダイヤル「忘れていない？災害伝言171」 ②激震の記録 阪神淡路大震災の記録 ③20世紀日本の地震災害 過去の震災の記録
	入手先・入手方法	①http://www.ntt.co.jp/saitai/171.html よりダウンロード ②災害救援ボランティア推進委員会からの情報提供 DVD ③災害救援ボランティア推進委員会からの情報提供 DVD
	機材・教材選定の理由(な ぜこの機材・教材を選ん だのか)	①放映時間・内容が適当で体験学習会の動機付けに向いている ②放映時間・内容が適当で被災体験のない、阪神大震災を直接 知らない世代への講演会の動機付けに向いている ③興味を持った生徒の学習を深める貴重な資料である。指導す る教員も把握しておくべき情報が多い。
準備で苦労した 点・工夫した点	前年度に今年度のモデル となる活動を行ったこと	生徒が、先輩方のレイアウトをふまえつつ、より良いものにし ようという活動になった。先生方の不安も少しは軽減できた点 で、プレ実施の意義は大きかった。

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

＜無印は初声中での内容。●印があるものは、市教委側で進めた活動＞

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月	●プラン立案本格開始	●初声中学校学習カリキュラム原案の起案	H17.11.4
12月	●チャレンジプラン参加の起案	●応急避難所開設と運営マニュアル作成、危機管理課と内容確認 初声中学校避難所学習授業指導第1回目 ●危機管理課合議、教育長決裁おける	H17.12.9 H17.12.14 H17.12.28
2006 1月	●学校防災計画の作成 ●チャレンジプラン選定通知	●地域防災計画とのすりあわせ 初声中学校避難所学習授業指導第2回目	H18.1.14 H18.1.31
2月	●2/18用発表会資料の作成 ●2/18 発表会 ●避難所向上へのアプローチ ●学校防災計画決裁 ●避難所向上へのアプローチ	●発表資料の作成・送付 ●ガラス飛散フィルム業者への提案 ●防災計画・避難所マニュアルの決裁おける ●食糧備蓄案の業者への提案	H18.2.13 H18.2.16 H18.2.17 H18.2.23
3月	●校長会議にて学校防災計画を周知 ●県教育課題研究への推薦	●各校長への説明 ●教育事務所への報告	H18.3 H18.3
4月	●2006 チャレンジプラン実践計画書・資金計画書の提出 ●教育課題研究連絡協議会	●実践計画書等の作成・ ●連絡会議用計画案・予算書の作成	
5月		発表技術学習会に関する打ち合わせ2回	発表技術学習会①
6月			●国際ワークショップでの避難所学習案発表 発表技術学習会②
7月		17年度初中避難所生徒案の検証(with 初中教員)②	発表技術学習会③
8月		17年度初中避難所生徒案の検証(with 初中教員)②	
9月	●第1回学校防災プラン検討会	●講師委嘱	
10月	●第2回学校防災プラン検討会	総合的な学習の時間の詳細な打合せ	
11月	●第3回学校防災プラン検討会	避難所学習講演会打合せ	地震学習会基調提案① ② 避難所学習開始③④⑥ ⑦⑧⑨ 避難所学習講演会(県外講師)⑤
12月	●第4回学校防災プラン検討会	避難所とベットのあり方講演会打合せ	ベットのあり講演会(県内講師)⑪ 班内協議⑩⑫⑬⑭⑮
2007 1月	●第5回学校防災プラン検討会 ●第6回学校防災プラン検討会	●校長会議にて冊子「学校防災計画～大地震に備えて～」について説明 避難所設計詳細な打合せ・学習会(学年会に参加 1月15日) 学校長との作成文章の校正等 数回実施 ☆未実施事項は実践の詳細を参照のこと	班内意見調整・案完成・案発表準備⑯⑰⑱⑲ ☆以下未実施 171 体験学習、クラス内発表会 学年発表会等

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

<初声中学校の避難所学習での取り組みについて>

タイトル	※避難所レイアウト学年発表会第1部		※避難所レイアウト学年発表会第2部・第3部	
実施日	2月16日(予定)			
所要時間	10分	35分	45分	20分
達成目標	・発表の聴き方が分かる	・学年、クラス代表としてしっかり発表する ・責任をもって投票活動する	・体験学習を通して学びを深める	・講師の助言を聞き、自分たちの学習成果を確認する
生成物		クラス代表案	・自衛隊による避難所施設設営、炊き出し等の実施	
進め方 (箇条書き)	・挨拶 ・司会が講師紹介。 ・経過報告 ・プリントを元に、案の評価の仕方、説明の聴き方を伝える。	(1) 学習成果発表 ・生徒代表3名 (2) 避難所プラン発表 ・代表班の発表 ・図とプレゼンを活用する。 (3) 投票	・事務局は投票結果分析にあたる。 ・生徒は、自衛隊の各ブースを順序に従いまわり、各ブースを体験したり、説明を聞いたりする。	・優秀作品発表 ・講師助言(3つの案の特徴を講師が伝えていく) ・お礼の言葉 ・成果と課題
ツール (特別に用意したもの)	評価カード 投票用紙		自衛隊の協力による施設設置(人救セット・天幕・炊き出し非常食体験)	講師作成のレジュメ
場所	体育館 校庭			

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

<初声中学校の避難所学習での取り組みについて>

タイトル	避難所学習講演会	避難所とペットのあり方	※171体験学習会	※クラス発表会
実施日	11月17日	12月11日	2月1日(予定)	2月8日(予定)
所要時間	45分	45分	45分	45分×2
達成目標	避難所に詳しい講師の話を通して、次時からの取り組みの原動力・方向性を得る。	避難所におけるペットの問題を、専門家の指摘を通して捉え直してみる。	171災害電話を体験し、30秒内に有効な登録が出来るように実体験しあう。	自分たちの案をクラスで発表できる。また、クラスの代表を決定できる。
生成物	・生徒が記入した、評価・質問、感想プリント	・生徒が記入した、評価・質問、感想プリント	・生徒が記入した、評価・質問、感想プリント	各班の、避難所レイアウト案説明用のプレゼン
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師紹介 ・自己紹介(5分) ・映像(13分) ・過去の事例、初声中はどうすべきか(20分) ・まとめ(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師紹介 ・自己紹介(5分) ・ペットに係わる重要な情報(40分) ・まとめ(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師陣の紹介 ・映像(13分) ・補足説明、教室へ移動 ・実際の体験活動 ・講師の方のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表をクラス内で行う。 ・クラス内投票で、良かった案1つ(クラス代表)を選ぶ。
ツール (特別に用意したもの)	評価・質問・感想用紙 阪神大震災のDVD(教材②) プロジェクター、PC	講師のレジュメ 評価・質問・感想用紙	忘れて171DVD(教材①) 評価・質問・感想用紙 プロジェクター、PC	評価・質問・感想用紙 プロジェクター、PC各3台
場所	体育館	音楽室	体育館で全体会 各教室	各教室

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。) No.1

<初声中学校の避難所学習での取り組みについて>

タイトル	地震の対策と準備	なぜ避難所学習なのか	取り組み方の説明	昨年度案の検討
実施日	10月31日	11月1日	11月7日	11月13日
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	地震についての基本的な(理科を背景とした)知識を得る	避難所学習が大切であることに気づく(学習の動機・原動力をつかむ)	スケジュール・進め方等、学習の取り組み方を周知徹底する	昨年度優秀案を検討し、自分たちの班がこだわるべき観点を見いだす。
生成物				
進め方 (箇条書き)	・学年全体で教師の講演を聞く	・学年全体で教師の講演を聞く ・プレゼンソフトでの授業	・5人1班構成で取り組むこと、スケジュールを伝える。 ・取り組み方を説明 ・質問を受ける	・去年の先輩達の優秀案を見る。 ・案の良いところを聞く。 ・案に足りない観点を探してみる。 ・自分たちの班のこだわりを考えてみる。
ツール (特別に用意したもの)	・地震学習プリント	昨年度のアンケートを元に作成したプレゼンテーション。プロジェクター。	・スケジュール、取り組み方の説明プリント	・昨年度優秀案のプリント ・その案の良いところ、足りない部分の学年会分析結果
場所	音楽室	音楽室	各教室	各教室

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。) No.2

タイトル	調査研究①	調査研究②	調査研究③	調査研究④
実施日	11月27日①	11月27日②	12月4日	12月6日
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	・目的を果たす自主的な調査が出来る	・目的を果たす自主的な調査が出来る	・目的を果たす自主的な調査が出来る	自分たちの班が何にこだわっているのか整理する。
生成物	班ごとの資料	班ごとの資料	班ごとの資料	班ごとの資料
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を集めていく ・1家族に必要なスペースを体験的に判断させ、教室や体育館の収用人員を求める。 ・初中・初小の地区割り調査 ・地区人口の何割を収容出来るかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を集めていく ・何ヶ月避難所として提供するか根拠をもって仮定する。 ・下水用マンホールの位置の確認。照明の数、コード長 ・非常用倉庫の中身の確認▼(トイレはいくつあるか?) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を集めていく ・水や食糧はどう提供されるか?(市の備蓄を知る)給食センターの活動見込みは? ・救援物資のとらえ方 ・電気・ガス・水道復旧までの目安、電話の見込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・終了していない調査 ・独自の観点での調査 ・調査研究①～③の内容の手順は班ごとの自主性に任せる。
ツール (特別に用意したもの)	昨年度の指導資料			
場所	各教室	各教室	各教室	各教室

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。) No.3

タイトル	講演会を聞いて	グループ別まとめ	避難所設計①	避難所設計②
実施日	12月13日	1月15日	1月17日	1月19日
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標	・ペットの観点を自分たちの案に取り上げるかなど、再度コンセプトを確認しあう。	・設計に必要な情報が何かの確認 ・疑問点をあげる	・共通設定を理解する	・避難所設計アイデア交換
生成物	班ごとの資料		ワークシートへの記入	ワークシートへの記入
進め方 (箇条書き)	・班内会議	・班内会議 ・疑問等のクラスでの発表	・教師によるワークシート学習 ・意見交換	・班内意見交換
ツール (特別に用意したもの)	アンケート用紙		学年会作成、設計上の条件等ワークシート	1/17のワークシート
場所	各教室	各教室	各教室	各教室

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。) No.4

タイトル	班内意見調整	避難所レイアウト作成①	※避難所レイアウト作成②	※発表準備①
実施日	1月22日	1月24日	1月29日(予定)	2月5日①②(予定)
所要時間	45分×2	45分	45分	45分×2
達成目標	・原案をチェックし、調整を行う。 ・成果物を作成できる準備を整える	計画を完成させる	・作品の完成を目指す (できれば①は完成する)	・発表練習に入る
生成物	班毎の原案	決定案	①特徴・アピール文 ②レイアウト図 ③プレゼンソフト作品	①特徴・アピール文 ②レイアウト図 ③プレゼンソフト作品
進め方 (箇条書き)	・具体的レイアウトを考える。 ・アイディアに矛盾はないか考える。 ・より良い方法を探す。	・決定して良いか最終協議 ・決まれば役割分担 ①特徴・アピール作成者 ②レイアウト図作成者 ③プレゼン作成者	・分担した作業を進める	・作品を完成させる
ツール (特別に用意したもの)	1/17のワークシート各教室 「計画見直しの観点」			
場所	各教室	各教室・PCルーム	各教室・PCルーム	各教室・PCルーム

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。) No.5

タイトル	※発表準備	※案の修正強化	※個人レポート作り	※避難所掲示物作り
実施日	2月8日(予定)①	2月9日(予定)	2月(予定4回)	3月(予定2回)
所要時間	45分	45分	45分×4	45分×2
達成目標	・クラス内発表会のためのプレゼンに習熟する	・選ばれたクラス代表案をより良くする	・プレゼンソフトを用い、各自の避難所学習レポートを作成できる	・避難所に必要な掲示物を作成する
生成物		クラス代表案修正版	個人レポート	大震災非常用掲示物
進め方 (箇条書き)	・発表がスムーズにできるよう練習する	・選ばれなかった作品の良いアイデアを検証する。 ・そのアイデアを採用できるか審議する ・採用した場合案を修正する	・個人レポートの内容を決める。 ・構想がまとまれば、プレゼンソフトでレポートを作成していく ・作品を廊下等で掲示する	・何が必要か教師が示す、 ・分担を決めて掲示物を作成する
ツール (特別に用意したもの)	発表資料	各班のアイデア	パワーポイント	必要なもののリスト
場所	各教室	各教室	PCルーム	各教室

VI実践後

参加者への アンケート結果	① 避難所講演会							
		質問項目	5	4	3	2	1	平均
	1	大地震が来たら大変だと思った。	91	7	1	0	1	4.9
	2	避難所は大切だと思った。	79	14	6	1	0	4.7
	3	避難所の計画は必要だと思う。	65	27	6	2	0	4.6
	4	今日の講義は大切な話だと思う。	74	16	8	2	0	4.6
	5	初中の計画も良い物にしたい。	65	21	12	2	0	4.5
	② 避難所とペットのあり方講演会							
		質問項目	5	4	3	2	1	平均
	1	今日の講義を受ける前は、避難所にはペットは避難して良いと考えていた	25	43	24	10	2	3.8
2	今日の講義を受けて、「ペットの避難」には考えるべきことがあると思った。	67	28	7	1	1	4.5	
3	自分たちの避難所レイアウトにおいて、今日の話は参考になった。	67	27	8	2	0	4.5	
4	ペットが避難してきて良い避難所にしたいと思う。	60	29	12	2	1	4.4	
(その他のイベント・避難所学習へのアンケート等での回答は今後実施)								
成果として 得たこと	<p><三浦市の学校防災計画を整備する視点で></p> <p>①三浦市学校防災計画を教職員一人ひとりに周知できるきっかけになった。</p> <p>②市の危機管理課との足並みをそろえた防災準備を進めることができた。</p> <p>③避難所運営委員会を各学校で開いていく道筋をひくことができた。</p> <p>④印刷物等、生徒や教職員に還元できる成果物の作成を行うことができた。</p> <p>⑤各学校長・防災担当者等に成果を還元できる波及効果の高い実践になった。</p> <p><避難所カリキュラムの質を向上させる視点で></p> <p>⑥チャレンジプランに関わる本市の防災教育について、ユネスコの国際会議で紹介することもできた。</p> <p><初声中学校が総合的な学習の時間で「避難所学習」に取り組んだことについての視点で></p> <p>⑦初声中学校において、チャレンジプランで示した計画に沿って、具体的に避難所学習を展開することができた。</p> <p>⑧地震災害をきちんと捉え、自分に関わることとして、初声中学校の生徒が防災教育に取り組むことができた。</p> <p>⑨外部講師の活用で、生徒の心に迫る効果的な講演会を開催することができた。</p> <p>⑩避難所にはルールがあるのだという自覚をもった若い世代の育成を行うことができた。</p>							
成果物	<p><三浦市の学校防災計画を整備する視点で></p> <p>①三浦市学校防災計画～大地震に備えて～（印刷部数 500部） 各学校防災担当者用「三浦市学校防災計画」（教育委員会で手刷り制作部数20部）</p> <p><研究自体の成果として></p> <p>②初声中学校生徒レイアウト作品（初声中学校校内印刷）</p> <p>③三浦市教育委員会チャレンジプラン実施成果報告（印刷部数 160部）</p>							

広報方法	広報した先	神奈川新聞、三崎港報
	広報の方法	実施案内プリントを Fax にて送信
	取材にきたマスコミ	2月16日の発表会なので不明
	広報された内容	不明
	成功点	不明
	失敗点	不明
全体の感想と 反省・課題	<p>★学校が求められる安全体制づくりや安全教育の対象は、地震・火災といった自然災害対策だけではなく、校内施設の安全管理、児童生徒の学校生活での安全管理（事故、いじめ問題等）や、登下校での安全管理など、沢山の側面を持っている。今回の三浦市教育委員会のチャレンジプラン参加は、その一要素である「地震」に対するアプローチであると認識している。</p> <p><三浦市の学校防災計画を整備する視点で></p> <p>①学校教育と行政の防災機関との間にたつ教育委員会のコーディネートが上手くいっていない現状が日本の至る所で見られるかもしれない。今回のチャレンジで、コーディネートに着手し、一体感のある活動に取り組み始めたことの意義は大きいと考える。</p> <p>②新しい考え方を盛り込んだ「大震災に備えて」を、本事業が契機となって、市内全職員に周知できることは、とても大きな成果といえる。</p> <p><初声中学校が総合的な学習の時間で「避難所学習」に取り組んだことについての視点で></p> <p>③カリキュラムを提案することは決して簡単なことではない。学校とよく相談して、学校のニーズを踏まえ、一方的な提案にならないように配慮することが肝要である。さらに踏み込めば、以下の点も課題となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはあくまでも学習教材であって、学校が考えなければならない現実的な避難所レイアウトと整合性が保てるわけではない。その点で混乱を招くおそれがある。 ・地域に実践を伝えることは、上記の点でやはり混乱の原因となるので、避ける必要がある。 ・この避難所学習の成果物自体が実効性のあるものになるには、まだ数年の経験が学校に必要とされる。また、用意されたカリキュラムでなく、担当学年自らがカリキュラムに改善を加えていくようになる必要がある。 <p><従来の防災学習に加え、新たに総合的な学習の時間に防災教育を推進する視点から></p> <p>④防災教育は、本来市内の全小学校・中学校において進められることが望ましい。そんな中、今回の避難所学習カリキュラムは、中学生向きに考えたカリキュラムである。市内にはあと3校中学校がある。できるものならば、その3校すべてにおいて、防災教育が展開されることが望ましい。しかし、すでに立ち上がっている各校の総合的な学習スタイルの中に、新たに防災教育が入り込める隙間がほとんど無い。他校が乗り換えたいと思うような具体的成果をあげていけばいつかその良さをアピールできるのであろうが、まだそこまでの現状に至っていない。</p> <p>⑤今回の試みで、学校現場における学校防災計画の整備はかなり進んだ。しかし、児童生徒に最低限教えるべき、従来からやっていた防災学習だけではなく、「総合的な学習の時間」を活用した積極的な「防災教育」を展開していくには、カリキュラムを開発するだけでは足りない。「安全教育」が必要な中、特に「防災教育」の必要性が十分に認められ、教育課程の中での教育活動として位置づいていくためには、今なお時間及び、必然的な動機づけが必要である。</p> <p><避難所学習カリキュラムの質的向上をはかる視点で></p> <p>⑥本カリキュラムは、全国どこでも実施できるものとして、実証的・探求的興味を持続できる内容になるように心がけてきた。しかし、鍵となる講演会については、やはり実体験をし、本物を知っている外部講師の活用がより効果的であることは明らかである。本年度はチャレンジプラン等の資金援助をもとに有効な講演会を開けたが、それが出来ないとき、校内の講師がどれだけ災害について正しく、生徒個々に迫る話が出来るとも大きな鍵を握っていると思われる。</p> <p>⑥実際に扱った DVD 資料等は非常に価値のある作品なので、おすすめできる。</p>	

今後の予定	来年度以降の進め方	学校自身に避難所学習カリキュラムの検討をお願いしていく。 ボランティアで講師を引き受けていただける方を学校に紹介したり、外部講師の役を、本市の指導主事等が行ったり、各学校を支援する。
	是非実施してみたい取り組み	<p>(食糧備蓄案の実現化)</p> <p>教育委員会の取り組みとはならないであろうが、具体的には以下のアイデアがあり実現に向けての取り組みを期待している。</p> <p>毎年、2000～3000円のお金を各家庭から集める(受益者負担) お粥と水を企業と交渉して廉価で仕入れる。通常買えるものの倍近い食料と水を企業の協力で購入し、各学校の空き教室に備蓄する。 1年間保存後、何もなければ、全家庭に倍近い非常食を渡し、新たにお金を徴収する。(1年後各家庭の非常食備蓄が倍増する) 震災時には、半分が購入家庭のもの、残り半分を一般への非常食として活用する。この方法なら、市に財政負担なしに、年度更新できる食糧備蓄が展開できる。</p> <p>(近隣市町と結ぶ大災害時の教職員の勤務地に関する協定の成立) 鉄道・道路などが寸断された場合の緊急参集のあり方について、近隣市町と綿密な打ち合わせののち、勤務校への参集が不可能な場合の勤務協定を結ぶことの意義は大きいと考える。難しいことは十分理解しているが、実施してみたい取り組みである。</p>
自由記述	<p><従来の防災学習に加え、新たに総合的な学習の時間に防災教育を推進する視点から> ○「防災」が新教育課程で、福祉や環境、国際理解のように、総合的な学習の時間の正式な課題の一つになるかどうかが鍵。</p> <p>正式な課題になれば、地域の調べ学習に最適で、既知の内容が少ない学びどころの多い「防災学習」は、注目を浴びると考える。課題に入らないと、「防災教育」と表記しても、実際に取り組み必要性をあまり感じてもらえず、学校教育から注目される程度は、あまり変わらないと予想できる。</p> <p><防災教育チャレンジプランのタイムスケジュールと学校現場の活動時期にズレがないか?> ○計画の最も主要な「避難所設計～レイアウト発表」までが、この報告書を作成している今現在よりあとに実施すること</p> <p>現在、1月末の活動以降を見込みで記述しているが、本来であれば、少なくともあと1ヶ月ずれることが望ましい。せめて、よりよい作品となるよう期待したい。</p> <p><担当として工夫努力した、別の側面から> ○今回の「避難所学習」を支える資金面的な工夫のため担当自身が努力した涉外についても触れておく。実際の成果となる後方支援の事例として特筆されるのが、 ①携帯電話を通話料も含め、教育と言うことで無償貸与いただいたこと。 ②マンホールトイレ・防災救急箱セットについても教育活動に対するご理解を得て、無償・或いは非常に廉価でのご協力をいただいたこと。 である。 いずれにしても感謝の念に堪えない。 この交渉ごとが成立した背景には、「防災教育チャレンジプラン」に選出された活動であったことが大きいと感じている。</p> <p><その他の日本的な課題> ○各市町に必ずいる防災担当者、学校教育の組織で「防災学習、さらには防災教育」を扱う担当者が、同じ会議に出席するケースが増えていくことが肝要だと感じている。避難所としての学校の役割が、今以上にきちんと認識され、実際の会議などで学校の立場・考え方をきちんと伝えていく必要があると感じる。</p>	